

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	医療・生命薬学専攻	分野	
学籍番号	16R3001	院生氏名	兼安(星野)貴子
通学キャンパス	東京赤坂キャンパス		
論文題目	経口血糖降下薬の費用効果分析と 日本の糖尿病診療ガイドラインへの提言		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>1. 主論文について</p> <p>1) 研究の概要</p> <p>日本の糖尿病診療ガイドラインにはこれまで費用対効果の言及はなかったが、今後、費用効果分析の検討と介入法や推奨薬剤をその中に示すよう求められてゆくと考えられる。本研究は、日本における経口血糖降下薬(OADs)の費用効果分析を実施し、糖尿病診療ガイドラインへの提言を行うことを目的としている。</p> <p>本研究では、メトホルミンで効果不十分な場合の6つのOADsの追加投与における治療効果とJ-DOIT3の患者背景から試算した合併症発症率から、それぞれの薬剤による得られた効果と費用について増分費用効果比(ICER)にて評価した。</p> <p>OADsの追加投与において、女性・男性共に2型糖尿病患者の生涯に渡る治療効果は、スルホニルウレア(SU)薬が最も低く、SGLT-2阻害薬が最も高いことが明らかとなり、その費用は各々対する費用は、6,549,277円と7,473,087円であった。これらの結果から、合併症の既往のない女性においてはSU薬、同様に合併症の既往のない男性においてはSU薬と<math>\alpha</math>-グルコシターゼ阻害薬が推奨されるとの結果が得られた。</p> <p>費用対効果評価の薬価算定への利用が制度化された今、合併症進展を抑制する継続的な治療のためにも、患者の経済的負担軽減に資する情報を吟味し、提供することがガイドラインには求められることを結論付けた。</p> <p>2) 研究方法は、論文のレビューやシミュレーションによるものであり、適切に実施された。倫理的問題に抵触する内容は含まれていない。また、本論文を構成する論証、論文形式も適切に記載された。</p> <p>3) 本研究の新規性は特に本論文を構成する英語論文については当該分野の学術的発展に大きく寄与する可能性が認められる。</p> <p>2. 口頭試問において著者は適切に応答し、審査員の指摘に対し適切に論文が修正された。</p> <p>3. 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(薬学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査	山田 治美	
	副査	小川 俊夫	
	副査	武藤 正樹	